貸借対照表

2019年3月31日現在

(単位:千円)

科目	当年度	前年度	増 減
Ⅰ 資産の部			
1. 流 動 資 産			
現金預金	224,729	254,203	△29
短期貸付金	1,036	1,432	0
前渡金	33,930	48,517	△14
未収入金	7,069	7,727	0
流動資産合計	266,765	311,880	△45
2. 固 定 資 産			
(1) 基本財産			
基本財産定期預金	20,000	20,000	0
投資有価証券	20,000	20,000	0
基本財産合計	40,000	40,000	0
(2) 特定資産			
役員退職慰労引当資産	7,320	5,110	2
東京2020事業開催積立資産	20,000	10,000	10
特定資産合計	27,320	15,110	12
(3) その他固定資産			
造作設備	2,838	1,677	1
什器備品	442	59	0
電話加入権	90	90	0
电品加入性 ソフトウェア	1,332	1,764	0
敷金	6,823	14,100	∆7
→	11,526	17,692	Δ6
固定資産合計	78,846	72,802	6
資産合計	345,611	384,682	△39
7 2 4 11	0.0,01.	30 1,002	
Ⅱ 負債の部			
1. 流 動 負 債			
未払金	6,178	7,450	Δ1
前受金	251,821	284,371	△32
預り金	635	617	0
流動負債合計	258,635	292,439	△33
2. 固 定 負 債			0
役員退職慰労引当金	7,320	7,320	0
固定負債合計	7,320	7,320	0
負債合計	265,955	299,759	△33
Ⅲ 正味財産の部			
	70.655	04.000	٨٥
1. 一般正味財産	79,655	84,922	△5
(うち基本財産への充当額) (うち特定資産への充当額)	△40,000 △20,000	△40,000 △10,000	0 △10
(ワら特定員座への元ヨ額) 正味財産合計	79,655	84,922	
			Δ5
負債及び正味財産合計	345,611	384,682	△39

正味財産増減計算書

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

(単位:千円)

科目	当年度予算額	当年度決算額	前年度決算額	決算額増減
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1)経常収益				
基本財産運用益	200	23	22	1
受取会費	12,370	12,480	13,559	△1,079
事業収益	596,004	582,901	676,893	△93,992
国際交流事業収益	450,649	441,836	519,172	△77,336
留学生交流事業収益	67,881	65,613	79,243	△13,630
日本語教育講座収益	59,030	55,081	59,272	△4,191
言語研究所講座収益	8,555	10,891	9,176	1,715
機関紙収益	3,888	3,888	3,888	0
その他収益	6,000	5,589	6,140	△551
経常収益計	608,574	595,405	690,475	△95,070
(2)経常費用				
事業費	598,569	581,706	647,525	△65,819
国際交流事業費	444,632	438,452	490,041	△51,589
留学生交流事業費	69,407	67,607	77,402	△9,795
日本語教育事業費	65,751	62,279	59,335	2,944
言語研究所講座事業費	13,382	12,774	12,384	390
役員報酬、減価償却費計	5,394	592	8,360	△7,768
管理費	19,522	18,737	19,420	△683
経常費用計	618,091	600,443	666,945	△66,502
当期経常増減額	△9,517	△5,038	23,529	△28,567
2. 経常外増減の部				
(1)経常外収益				
経常外収益計	200	0	0	0
(2)経常外費用				
経常外費用計	100	229	32	197
当期経常外増減額	100	△229	△32	△197
当期一般正味財産増減額	△9,417	△5,267	23,497	△28,764
一般正味財産期首残高	69,045	84,922	61,425	23,497
一般正味財産期末残高	59,627	79,655	84,922	△5,267
Ⅱ 指定正味財産増減の部	0	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	59,627	79,655	84,922	△5,267

^{*} 交流事業は、交流と受入。留学事業は、留学と通信教材。日本語事業は、日本語と教員養成事業を含む。